

# ESDとは？

## ESD (Education for Sustainable Development)

### 1. ESD (Education for Sustainable Development) とは？

ESD は Education for Sustainable Development の略で「持続可能な開発のための教育」と訳されています。(注1)

今、世界には環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な問題があります。ESD とは、これらの現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む (think globally, act locally) ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。

つまり、ESD は持続可能な社会づくりの担い手を育む教育です。

ESD の実施には、特に次の二つの観点が必要です。

- 人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育むこと
- 他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「関わり」、「つながり」を尊重できる個人を育むこと

そのため、環境、平和や人権等の ESD の対象となる様々な課題への取組をベースにしつつ、環境、経済、社会、文化の各側面から学際的かつ総合的に取り組むことが重要です。

#### ●ESD の概念図

関連する様々な分野を“持続可能な社会の構築”の観点からつなげ、総合的に取り組むことが必要です。

# 環境学習

エネルギー  
学習

国際理解  
学習

## ESDの基本的な考え方

防災学習

〔知識、価値観、行動等〕

世界遺産や  
地域の文化財等  
に関する学習

環境、経済、社会  
の統合的な発展

生物多様性

その他  
関連する学習



## 2. ESD で目指すこと

### (1) ESD の目標

- 全ての人が質の高い教育の恩恵を享受すること
- 持続可能な開発のために求められる原則、価値観及び行動が、あらゆる教育や学びの場に取り込まれること
- 環境、経済、社会の面において持続可能な将来が実現できるような価値観と行動の変革をもたらすこと

### (2) 育みたい力

- 持続可能な開発に関する価値観  
(人間の尊重、多様性の尊重、非排他性、機会均等、環境の尊重等)
- 体系的な思考力(問題や現象の背景の理解、多面的かつ総合的なものの見方)

- 代替案の思考力(批判力)
- データや情報の分析能力
- コミュニケーション能力
- リーダーシップの向上

### (3) 学び方・教え方

- 「関心の喚起 → 理解の深化 → 参加する態度や問題解決能力の育成」を通じて「具体的な行動」を促すという一連の流れの中に位置付けること
- 単に知識の伝達にとどまらず、体験、体感を重視して、探求や実践を重視する参加型アプローチをとること
- 活動の場で学習者の自発的な行動を上手に引き出すこと

### (4) 我が国が優先的に取り組むべき課題

先進国が取り組むべき環境保全を中心とした課題を入り口として、環境、経済、社会の統合的な発展について取り組みつつ、開発途上国を含む世界規模の持続可能な開発につながる諸課題を視野に入れた取組を進めていく。

## 3. ESD に関するグローバル・アクション・プログラム

2013年11月、第37回ユネスコ総会において、「国連ESDの10年」(2005～2014年)の後継プログラムとして「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム(GAP)」が採択され、2014年第69回国連総会で承認された。

持続可能な開発は政治的な合意、金銭的誘因、又は技術的解決策だけでは達成できない。持続可能な開発のためには我々の思考と行動の変革が必要であり、教育はこの変革を実現する重要な役割を担っている。そのため、様々な行動によってESDの可能性を最大限に引き出し、万人に対する持続可能な開発の学習の機会を増やすことが必要である。「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム」は、この行動を生み出すための枠組みを示すものである。